

< 北アルプス >

1. 北鎌尾根～横尾尾根(上級生GW山行)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、川名、斎藤、外池、白石

【日程】1985年5月1日～4日

5月1日(快晴)

七倉(7:00～9:00)→湯俣(12:10)→中東沢出合(14:50)→テントサイト(16:30)

前夜の夜行で痛飲してしまい、列車の中で寝小便をたれたりピッケルを駅に忘れるなどのアクシデントが発生したため七倉発はバラバラになった。水俣川沿いの道は、崩壊激しく度々渡渉を強いられて時間を食い、中東沢出合少し上の台地に幕営。

5月2日(晴れのちくもり)

テントサイト(5:30)→千天出合(8:30)→P2(11:05)→4・5のコルテントサイト(14:30)

天候ののどかさで荷の重さでいっこうにペースがあがらなかった。

5月3日(晴れのちくもり)

テントサイト(5:10)→独標(11:45)→槍ヶ岳頂上(16:00～16:30)→肩の小屋テントサイト(18:00)

P6の千丈沢側のトラバースに1ピッチ、独標のルンゼ状に1ピッチそれぞれザイルをフィックス。ポツカリと頂上の祠のわきに出た時の感激はひとしおであった。

5月4日(快晴)

テントサイト(6:45)→横尾尾根分岐(8:15)⇔南岳(8:35)→2のガリ一下降点(16:00)
→横尾(17:45)

横尾尾根は所々イヤらしい下りがあつてかなりの時間をくった。横尾で解散とする。

2. 剣岳(文部省春山登山研修会)

【メンバー】鮎沢

【日程】1985年5月11日～17日

5月11日から13日まで千寿が原の研修所で研修。14日剣沢の前進基地に入り講習を受けた後16日S字雪渓～源次郎尾根～*峰～平蔵谷のコースでアタック。17日下山、解散。大変しごかれたがいい勉強にはなった。

*一字不詳

3. 雪山訓練合宿

雪山訓練;内蔵助平

縦走 ; 扇沢 → 針ノ木岳 → 七倉岳 → 七倉

2, 3年生アタック; 立山中央山稜

【メンバー】谷口(CL)、, 鮎沢(SL)、川名、斎藤、外池、小野、大野、青木、樋渡

【日程】1985年5月24日～5月31日

5月24日(晴れ)

先発隊(鮎沢、川名、斎藤、外池)

黒部ダム→内蔵助平→ 内蔵助平峰手前テントサイト

5月25日(雨)

先発隊はテントサイトから内蔵助乗越へテントを移す

後発隊(谷口、河野、小野、大野、青木、樋渡)は黒部ダムから内蔵助平のテントサイトへ

5月26日(晴れ)

先発隊は、立山中央山稜のアタックを中止し、内蔵助平へ。後発隊を探すが発見できず、何らかの事故があったものとみて黒部ダムへ下る。黒部ダムでも後発隊との連絡がとれないため、鮎沢と斎藤が再度内蔵助平へ向かう。内蔵助平で後発隊を発見し、黒部ダムへ引き返す。

後発隊は内蔵助平で雪上訓練。その後、連絡のつかない先発隊は中央山稜で事故を起こしたと判断し、谷口・河野は捜査に出発する。がその直後黒部ダムから戻ってきた鮎沢・斎藤が後発隊を発見し、互いの無事を確認する。

5月27日(晴れ)

先発隊は黒部ダムから内蔵助平へもどり、後発隊と合流し、そのあと雪上訓練実施

後発隊は、内蔵助平で雪上訓練

5月28日(晴れ)

雪上訓練

5月29日(雨)

天候が悪いので谷口、河野の中央山稜アタックおよびその他の立山アタックを中止。

後半の縦走に向かう。

内蔵助平→ 黒部ダム → 扇沢テントサイト

5月30日(晴れ)

テントサイト → 針ノ木峠 → 北葛岳 → 船窪小屋テントサイト

5月31日(晴れ)

テントサイト → 七倉

今回山行では思わぬところで未熟さがでてしまった。内蔵助平で後発隊を発見できなかった時の先発隊の判断は少々早急すぎた。もう少し、内蔵助平で待つべきだったろう。

4. 湊沢定着岩登り(夏合宿偵察)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、斎藤、外池、河野

【日程】1985年7月10日～17日

7月10日

谷口、斎藤、河野湊沢入り

7月11日(雨つよし)

豪雨でバスが動かず。鮎沢は、沢渡から歩いて入山。他の3人は、停滞。

7月12日(晴れ)

北尾根Ⅳ峰正面松高ルート

取り付き(8:00)→終了(13:00)

1ピッチ目ルートを間違えルート図ではⅡ級のはずがなぜかA*のミックスになったほかは順調。鮎沢、斎藤、河野の3人にとっては、初めての本番で全ピッチ谷口リード。

7月13日(雨つよし)

谷口、河野は雨の中を下山。鮎沢、斎藤は停滞。夕方、外池が湊沢入り。バスは動いたようだ。

7月14日(曇りのち晴れ)

午後になって晴れたため、北尾根Ⅲ峰フェース登高会ルートに取付く。2ピッチの短いルートだったが初めての本番のリードなので、アブミを使いまくってしまった。終了後、同ルートをアプザイレン。

7月15日(晴れのち曇り)

BC(5:05)→(北穂東稜経由)→北穂小屋(7:15)→奥穂小屋(8:45)→ジャンダルムT1フランケ登攀開始(10:45)→ジャンダルム(15:30)→奥穂小屋(16:05)→BC(16:40)

T1フランケでは無名ルートにとりついてしまい、残置ハーケンがポツンポツンとしかなくて本当に怖い思いをした。経験不足を痛感。

7月16日(晴れ)

湊沢BC(4:55)→5・6の科尔(6:20)→奥又白池(7:45)

前穂北壁Aフェースを登るべくベースを移すがあまりの疲労のため、休養日とする。

7月17日(晴れのち曇り)

BC(5:00)→北壁取付き(7:00)→前穂頂上(10:25)→BC(11:40)

3本目ともなるとかなり余裕をもってリードできるようになる。むしろ、アプローチのC沢と下降路のA沢の雪渓の方が硬くて怖かった。BCを撤収して中畠新道を下る。

5. 剣岳から槍ヶ岳縦走(夏合宿)

【メンバー】鮎沢(CL)、齋藤(SL)、川名、外池、河野、小野、大野、青木、樋渡

【日程】1985年8月7日～17日

8月7日

室堂(8:35)→別山乗越(11:20)→剣沢 BC(12:05)→武蔵谷出合付近で雪上訓練(13:50～15:00)→BC(16:00)

8月8日

BC(5:20)→平蔵谷出合(5:45 雪上訓練実施)→平蔵のコル(10:30)→本峰(11:45)→前剣(13:40)→一服剣(14:35)→BC(16:05)

8月9日

剣沢(4:45)→真砂岳(6:55)→一ノ越(9:30)→ザラ峠(13:30)→五色ヶ原(14:10)→テントサイト(TS 14:40)

8月10日

TS(5:35)→越中沢岳(8:30)→スゴ乗越TS(14:00)

青木、日射病で倒れる。

8月11日

TS(5:25)→薬師岳(9:45)→薬師峠TS(11:30)

川名、足捻挫。

8月12日

TS(5:40)→太郎山(6:10)→中ノ俣乗越(10:10)→黒部五郎岳(11:30)→黒部五郎小屋TS(13:00)

一日中雨の中を行動する。齋藤、足を捻挫。

8月13日

停滞。2人の捻挫した足の状態が思わしくないので休養日とする。

8月14日

TS(6:10)→三俣蓮華岳(8:25)→双六小屋TS(11:00)

8月15日

TS(5:25)→千丈沢乗越(8:55)→槍ヶ岳山荘(10:30～12:40)→横尾(17:00)

8月16日

後発隊(谷口、白石)待ちのため停滞。鮎沢のみ宮下、山本両OBとの岩登りのため、涸沢入り。

8月17日

【メンバー】宮下OB、山本OB、鮎沢

涸沢BC(4:45)→5・6の科尔(5:45)→前穂東壁右岩稜古川ルート取付きで順番待ち→終了(12:45)

【メンバー】その他

後発隊と横尾で合流後、皮沢入り。雪上訓練実施。根本OB、浅田OBも来られる。

縦走出発の段階で、荷は25~45kg。負傷者が続出するし、途中で下りたいとダダをこねる1年生もあらわれ、なかなか難儀した。

6. 涸沢定着(夏合宿)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、川名、斎藤、外池、河野、小野、大野、青木、樋渡、白石

【日程】1985年8月18日~23日

8月18日

・BC→5・6の科尔→北尾根→前穂高岳→奥穂高岳→BC

【メンバー】鮎沢、河野、小野、樋渡

・BC→北穂東稜→北穂高岳

【メンバー】谷口、外池、大野、青木

・南稜経由北穂高岳

【メンバー】根本OB、浅田OB、宮下OB、山本OB

白石はデポをとりに横尾往復。川名、斎藤は休養

8月19日

・BC→5・6の科尔→奥又白池→明神東稜→明神主峰→前穂高岳→岳沢ヒュッテ→コブ沢下流ビバークポイント(BP)

【メンバー】鮎沢、外池、青木、樋渡

・ジャンダルム飛騨尾根→ジャンダルムT1フランケ

【メンバー】斎藤、河野、小野

・北尾根

【メンバー】谷口、川名、大野

正午過ぎから猛烈な雷雨となり、岳沢が氾濫して大岩がゴロゴロと流されていた。鮎沢隊はヒュッ

テでのうのうと雨宿りしていたが、齋藤隊は T1 フランケの大テラスでぬれねずみになって、落雷の恐怖におびえていたという。齋藤(L)の天候判断に問題があった。

8 月 20 日

・コブ沢下流 BP→コブ尾根→奥穂高岳→BC

【メンバー】鮎沢、外池、青木、樋渡

・北尾根Ⅲ峰フェース登高会ルート

【メンバー】谷口、小野、大野

・北穂高岳東稜

【メンバー】齋藤、川名、白石、河野

コブ尾根の途中で青木はピッケルを忘れた。Ⅲ峰フェースは 1 年生 2 人が初めての本番ということで、苦戦を強いられた。齋藤、川名の足はだいぶ回復。

8 月 21 日

休養日。昨夏の剣岳での事故以来岩登りから遠ざかっていた白石の希望により、白石と鮎沢はⅢ峰フェースへ。登高会ルートの所要時間は 1 時間 10 分。

8 月 22 日

・ジャンダルム飛騨尾根→ジャンダルム T1 フランケ左ルート

【メンバー】鮎沢、外池、青木、樋渡 (T1 フランケは鮎沢、外池のみ)

・BC→パノラマコース→わさび沢→2,263m 峰コル BP

【メンバー】谷口、川名、大野

・BC→5・6のコル→奥又白池→明神東稜→明神主峰→前穂高岳→岳沢ヒュッテ→コブ沢下流 BP

【メンバー】齋藤、河野、小野、白石

“恐怖の T1 フランケ”伝説はあっさり破られた。谷口隊はルート・ファインディングにかなり苦労した模様。齋藤隊では、小野が東稜に出る前で数 m 転落し、かなりショックを受けたようだ。

8 月 23 日

・Ⅲ峰フェース登高会ルート

【メンバー】鮎沢、外池、青木、樋渡

・BP→明神主稜線→前穂高岳→奥穂高岳→BC

【メンバー】谷口、川名、大野

・BP→コブ尾根→奥穂高岳→BC

【メンバー】齋藤、河野、小野、白石

定着最終日。無事日程を終え夜は打上げ宴会をやるが、上級生は翌日からの残留岩登りのため酒をセーブしなければならず、もう下山するだけとなった下級生が異様な盛り上がりを見せた。お疲れ様でした。

7. 滝谷、屏風岩(夏合宿上級生残留岩登り)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、斎藤、外池、河野

【日程】1985年8月24日～28日

8月24日(快晴)

涸沢発(5:00)→南稜テント場(5:55)→滝谷ドーム中央稜取付き(7:10)→登攀開始(7:30)→登攀終了(9:35)→涸沢BC(11:00)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、斎藤、外池、河野

8月25日(晴れ)

涸沢発(4:05)→横尾岩小屋(5:05)

・屏風岩東稜

横尾岩小屋→T4(7:00)→東稜登攀開始(7:30)→登攀終了(9:35)→屏風の頭(11:55～12:25)→涸沢(13:15)

【メンバー】鮎沢、斎藤

・屏風岩1ルンゼ

横尾岩小屋→1ルンゼ取付き(6:30)→登攀終了(12:30)→涸沢(14:45)

【メンバー】谷口、外池、河野

8月26日

休養日

8月27日(快晴)

【メンバー】鮎沢、斎藤

涸沢発(2:55)→横尾岩小屋(3:55)→1ルンゼ取付き(4:30)→登攀開始(5:05)→登攀終了(8:10)→5・6の科尔(9:50)→T1(11:05)→北条・新村ルート登攀開始(11:20)→登攀終了(13:35)→3・4の科尔でピバーク(14:20)

8月28日

BP 発(5:00)→右岩稜古川ルート取付き(5:25)→ハング終了(6:35)→北壁、Aフェースを通り前穂高岳頂上(8:15)→奥穂高山荘(9:30)→ドーム西壁雲表ルート取付き(10:55)→登攀開始(11:10)→登攀終了(12:50)→涸沢BC(14:10)

<感想>

本番の岩登りも前穂東壁、南ア(北岳バットレス、赤石沢奥壁)に次いで3度目となり、いづらか慣れてきていた。しかし、今回の登攀は、屏風、滝谷と日本の登攀史上名高い岩場でとくに合宿後半は継続登攀を行ったため非常にまいった。継続登攀は岩場そのものの難しさよりも壁から壁へのアプローチによる疲労が大きい。とりあえず成功した後の充実感は、これまでで最高のものとなった。(齋藤)

8. 潤沢岳幕岩

【メンバー】鮎沢(CL)、齋藤(SL)

【日程】1985年10月23日～26日

10月23日(曇り)

七倉(8:30)→唐沢出合(9:30)→B沢出合(11:20)→大町の宿(岩舎 12:00)

10月24日(晴れ)

壁にベルグラが張りついていたためビビッテ沈殿。

10月25日(晴れ)

大町の宿(6:00)→S字状ルート取付(7:00)→14ピッチで登攀終了(13:30)→大町の宿(16:00)

10月26日(晴れ)

大町の宿(6:00)→大凹角ルート取付(6:40)→10ピッチで登攀終了(9:55)→大町の宿(11:40)→七倉(15:00)

ビッグウォールと呼ぶにふさわしい長大なルートだった。今回の登攀を成功することで、一応夏のフリークライミングには自信が持てるようになった。しかし、何度か出てきたA1に人工技術というか体力の困難さを教えられた。(齋藤)

9. 白馬岳主稜～楯池(春合宿偵察)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢、川名

【日程】1985年11月18日～24日

11月18日(雪)

白馬林道分岐(7:20)→猿倉山荘(10:15)→猿倉台地テントサイト(以下TS 13:15)

林道分岐でタクシーをおりるといきなり膝までのラッセル。雪降る中黙々とラッセルするが、遠見尾根までの食糧・装備でザックは重く、猿倉大地泊まり

11月19日(*のちくもり)

TS(6:30)→白馬尻(11:10)→猿倉台地 TS(12:45)

一晚中雪が降り続け、大雪渓や8峰斜面からの雪崩がこわかったので、空身で白馬尻まで偵察をかねてラッセルする。ラッセルはももまでとなる。

11月20日(晴れのち曇り)

TS(6:10)→白馬尻(11:10)→8峰下の台地 TS(15:00)

8峰へは斜面中央の凸状部を登る。ラッセルは急斜面では胸までとなり、前途に大いなる不安を感じる。

11月21日(快晴)

T.S.(6:10)→8峰(8:45)→6峰(10:45)→5峰(12:40)→4峰(14:35)→3・4のコル T.S.(15:30)

急雪壁とナイフリッジのラッセルで息つくヒマもない。小雪庇も出ている。天気の良いのだけがせめてもの慰めだ。

11月22日(快晴のち曇り)

T.S.(6:10)→3峰(10:45)→2峰(12:40)→頂上(16:30)→白馬山荘 T.S.(16:45)

3峰で2ピッチ、2峰で1ピッチ、頂上直下で1ピッチザイルを出す。この時期は岩の上に雪が不安定にのっていて非常にイヤラシイ。頂上直下の雪壁では頭上の雪をピッケルのブレードでくずすほかに登りようがなかった。小雪庇をこすと烈風吹きすさぶ頂上だった。

11月23日(雪)

日本海を低気圧が東進し、全く視界が効かない程の風雪で停滞。遠見は問題外。せめて八方までと思ったが、それも最終下山日が明日となってはかなわぬ夢。明日は何としても楯池に降りなければならない。

11月24日(雪)

雪は依然降っているが、昨日よりは視界もきくし風もいくぶん弱い。気合いをいれて出発。三国境付近でルートを失いながらも何とか Gondola 駅にたどりつくことができた。楯池は雨で、スキー場には全然雪がない。あのラッセルはいったい何だったのだろう？

帰りの電車の中で3人は清酒「大雪渓」を飲みつつ「もう当分雪は見たくもないぜ」とうなずきあうのだった。

10. 澗沢岳幕岩冬季登攀

【メンバー】岩崎(L)、多和、丸野(以上、アスペン・クラブ)、谷口、鮎沢

【日程】2月9日～11日

2月9日

七倉(6:10)－高瀬ダム(7:10)－大町の宿(9:45 雪)－登攀開始(11:05)－ボサテラス(16:15 雪)－大町の宿(18:00)

吹雪の中、入山。見上げる壁はハング帯以外はまっ白だ。トップの岩崎氏は絶えずスノーシャワーを浴びながらもジリジリと高度をかせぐ。登る方も大変だろうが、確保する方もつらい。ボサテラスまで3ピッチフィックスして下降。

2月10日

大町の宿(8:15)－ボサテラス(9:40 快晴)－終了点(16:10 快晴)－右稜の頭(17:45)－大町の宿(22:00)

昨日とはうってかわって快晴の中、ボサテラスまでユマーリングして登攀再開。5人が終了点にそろった時にはもう暗くなりはじめていた。星夜の下、蒼く輝くベルグラを蹴りながら右稜を懸垂下降。途中1回ザイルが回収できなくなり逆上したが、後から下りてきた岩崎氏が直してくれてホッとした。

2月11日

大町の宿(10:20)－高瀬ダム(11:45)－七倉(12:45 晴れ)

初めての冬季登攀を僕たちだけの手で行うことにはOBの許可が下りず、社会人山岳会アスペン・クラブとの合同山行という形で行う(アスペン・クラブの岩崎氏と谷口がインドのWHMIで知り合っていたことからこの話がまとまった)。壁はベルグラがはりつめ、極端に状態が悪く、また5人という大パーティーのせいもあり、結局全ピッチ岩崎氏がリード、後続はユマーリングということになってしまったが冬の壁の厳しさを思い知らされ大変勉強になった。

11. 1986年春合宿(白馬岳主稜～白馬三山往復～柵池)

【メンバー】鮎沢(CL)、斎藤(SL)、外池、河野(以上、2年)、小野、大野(以上、1年)

【日程】1986年3月17日～22日

3月17日(曇りのち雪)

前夜白馬駅泊 - 白馬駅(5:20 タクシー)－二股発電所(5:50)－猿倉荘(7:50～8:00)－猿倉台地テントサイト(TS 8:40)

踏み跡もあり順調に進むが、猿倉荘を発ってから雪と風が強まり幕営。

3月18日(曇りのち雪 みぞれ)

起床(4:30)－TS 発(6:10)－白馬尻(6:50～7:05)－八峰上(9:05)－六峰(10:35)－
3、4のコル TS(12:12)

日中は天気も穏やかで、3、4のコルに着いた時まだまだ転記はもちそうだったが重荷のため疲労がはげしく、翌日の沈滞を覚悟して幕営する。

3月19日(みぞれ)

沈滞

3月20日(雪またはみぞれ)

沈滞

3月21日(快晴)

起床(5:00)－TS 発(8:00)－二峰手前(10:50)－二峰前峰上(12:45)－白馬岳頂上(14:50)－村営宿舎 TS(15:12)

前日までの雪で腰までの厳しいラッセルを強いられる。二峰の前峰の雪壁と頂上直下の雪壁を齋藤、鮎沢がそれぞれリードし、他はユマールで登り頂上へ。

3月22日(快晴→曇り)

起床(4:30)－TS 発(5:50)－白馬鑓(7:17)－TS(8:20～9:05)－三国境(9:55～10:05)－乗鞍岳(11:45)－柵池山荘(12:45)－リフト終点(13:20～14:00)－柵池高原駅(15:00)－白馬駅

明日以降天気が崩れそうなので、今日中に下山すべく計画では天狗の頭まで行くところを白馬三山往復に変更する。朝から風が強く、下界には雲海が広がっているが、稜上は快晴である。快ペースで一気に白馬鑓を往復し下山する。最後、柵池山荘を出たところから小野がはぐれ、一同気をもむが無事下山してきた。メデタシ。(文責 河野)

< 南アルプス >

12. 白峰南嶺縦走

【メンバー】鮎沢

【日程】1985年4月18日～21日

4月18日

老平(9:05 曇り)ー広河原(12:00 曇り)ー布引山からの尾根途中 TS(テントサイト14:35 曇り)

4月19日

TS(5:45 晴れ)ー布引山(8:25 晴れ)ー策ヶ岳(9:45 晴れ)ー生木割(12:05 曇り)ー保利沢山トラバース道途中 TS(15:15 曇り)

4月20日(雪のち晴れ)

(雷と雪で天候待ち)TS(10:40 曇り)ー転付峠(12:40 曇り)ー奈良田越 TS(16:30 晴れ)

4月21日

TS(5:10 快晴)ー西山ダム(8:10 快晴)

「4月の南アだから・・・」とワカンを持って行かなかったが、稜線に出るとヒザまでのラッセルがあり、その上に19日～20日にかけて30CMほど積もりスベアを使ってやっとのことで下山した。しかし、「南アの展望台」と言われる策ヶ岳からの眺めは、その苦労を補ってあまりあるものであった。

13. 白根三山～仙丈岳～甲斐駒ヶ岳～黒戸尾根(南アルプス縦走)

【メンバー】CL 齋藤、SL 外池

【日程】1985年6月14日～17日

6月14日(曇り)

奈良田(9:00)ー大門沢小屋(12:05)ー2,400m 付近の岩陰で幕営(14:30)

6月15日(晴れ)

TS(4:30)ー主稜線(6:30)ー農鳥岳(6:30)ー農鳥山荘(7:40～8:30)ー間ノ岳(9:40)ー北岳山荘(10:45)ー北岳(12:05)ー左俣沢出合(14:00)ー両俣(14:30)ーTS(15:00)

6月16日(晴れ)

TS(4:55)ー横川岳(5:45)ー伊那荒倉岳(6:50)ー大仙丈岳(9:05)ー仙丈岳(9:45)ー

北沢峠(11:30)－仙水峠下TS(12:30)

6月17日(晴れ)

TS(5:00)－駒津峰(6:00)－五合目(8:00)－竹宇駒ヶ岳神社(10:15)

はじめての南アルプス、はじめてのリーダーということで緊張させられたと同時に新鮮だった。梅雨時にもかかわらず好天に恵まれ充実した山行となった。

14. 甲斐駒黄蓮谷**～赤石沢奥壁中央稜～北岳西面藪沢～北岳バットレス第四尾根

【メンバー】鮎沢(CL)、斎藤(SL)、外池、河野

【日程】1985年7月23日～27日

7月23日(快晴)

横手神社(5:25)－5合目小屋(9:25)－8合岩舎デポ(11:30)－5合目小屋(12:30)－千丈ノ滝岩舎(13:30)

7月24日(晴れ)

岩舎(5:30)－二俣(7:05)－稜線(13:00)－8合岩舎(14:10)

黄蓮谷は何度登ってもおもしろい沢だ。雪渓が残っているのにはあせった。

7月25日(快晴)

奥壁中央稜取付き(5:30)－稜線(9:30)－8合岩舎(9:55～10:30)－本峰(11:15)－長衛小屋(13:30)－前白根沢出合BP(16:30)

中央稜はブッシュ登りで腕力を使わされた後でIV+くらいのピッチが現れるのでまいった。岩舎を撤収した後、長い長い林道歩きをして野呂川の河原へ降りる。夜は、流木を使って盛大な焚火。

7月26日(晴れ)

BP(5:00)－藪沢出合(6:00)－城塞上(7:00)－稜線(9:25)－大樺沢二俣BP

藪沢は快適に直登できるナメ滝が連続しておもしろいが、源頭でのハイマツ漕ぎはかんべんしてほしい。

7月27日(快晴)

dガリー大滝取付(5:15)－第四尾根終了点(9:30)－北岳頂上(9:50)

四尾根は明るくて傾斜も緩くてゲレンデ気分で登れた。

15. 南ア鳳凰三山縦走(御座石鉱泉～鳳凰三山～夜叉神峠)

【メンバー】CL 齋藤、SL 大野

【日程】1985年11月23日～24日

11月23日(雨のち晴れ)

御座石鉱泉(7:20)－燕頭山(10:05)－鳳凰小屋(11:55)

11月24日(雪のち雨)

鳳凰小屋(7:10)－薬師小屋(9:00)－南御室小屋(9:35)－夜叉神峠小屋(11:30)－スーパー林道(12:05)

一年の大野をつれて雪のついた稜線をアイゼンなしで歩くのはちょっとこわかったが、稜線が短いこともあって無事だった。鳳凰小屋のテント場でうちの大学の山友会の人々と会い、写真を撮ってもらったり山頂でシャンパンを飲んだりした。こういう優雅な山登りもたまにはいいものだ？

(齋藤)

16. 甲斐駒戸台川支流アイスクライミング(奥駒津沢、駒津沢、舞姫ノ滝)

【メンバー】鮎沢(L)、齋藤

【日程】1986年1月18日～20日

1月18日(晴れのち曇り)

戸台より入山、丹溪山荘わきにベースを張る

1月19日

奥駒津沢出合(9:35)－F3上－奥駒津沢出合(12:00)－駒津沢F1(12:20～14:30)

1月20日

舞姫ノ滝F1(7:35)－タッチの氷柱(10:30)－F1下(11:40)－戸台

HUHACの“いいかげんコンビ”がたいした経験もないのに道具(シャルレスーパー14、ガバルールバイル、スナーグ)にもものを言わせてヴァーティカル・アイスに挑戦。前腕・ふくらはぎ・顔面と体中のすべての筋肉をひきつらせて、途中アイスピトンを落したりしながらも何とかノー・フォールで

予定の氷瀑を完登。アイスクライミングって本当におもしろいですねー。

17. 甲斐駒ヶ岳前衛日向山ヤチキ沢

【メンバー】近藤、引地、山本(以上 OB)、鮎沢

【日程】1986 年 1 月 25 日～26 日

1 月 25 日

韭崎で合宿がえりの鮎沢を拾い、近藤 OB の車でサントリー白州工場裏の神宮橋へ。橋のわきに幕営。

1 月 26 日

神宮橋(7:35)ーヤチキ沢出合(8:00)ー稜線(12:35)ー日向八丁尾根登山道終点(13:30)ー神宮橋(15:15)

ナメ滝や小氷柱が連続しており技術的な困難さはないが楽しめる沢であった。日向山から北東に延びる尾根に出るが、直下のガレ場は非常に恐ろしい。下降路を誤って日向八丁尾根に入ってしまった、神宮橋のテントに戻るのに大変なアルバイトを強いられた。

18. 尾白川下流アイスクライミング

日向沢ー日向山ー刃渡沢ー黒戸尾根ー甲斐駒ヶ岳ー北沢峠ー仙丈岳ー北沢峠ー戸台

【メンバー】鮎沢

【日程】1986 年 2 月 21 日～24 日

2 月 21 日(快晴)

神宮川林道入口(6:35)ー日向沢出合(8:10)ー日向山(11:05)ー尾白川林道(12:20)ー刃渡沢出合 BP(16:20)

日向沢は氷結悪く、上部のナメ滝群は雪に埋まっていた。源頭でリッジを越えてルンゼに降りるのにアップザイレン 1 回。

2 月 22 日(晴れ)

BP(6:50)ー稜線(13:50)ー5 合目小屋(15:55)

刃渡沢は大きな氷瀑が連続するが、直登の自信なくほとんど高まく。高まいて行き詰まり本流へ戻るのにブッシュ支点到振り子トラバース 1 回。源頭部は、ももから胸のラッセルで、時折雪面に

亀裂が走りビクビクものだった。

黒戸尾根には、期待していたトレールなし。明日からのラッセルを思うと心は重い。

2月23日(快晴)

5 合目小屋(6:20)－8 合鳥居(9:40)－頂上(11:40)－仙水峠(13:35)－長衛小屋(14:30)

7合から8合にかけてのラッセルが非常にきつかった。8合から上はクラストしており歩きやすい。北沢峠側にはトレールがあり、一人狂喜する。

2月24日

長衛小屋(6:10)－仙丈岳(9:40 晴れ)－大平小屋(11:50 曇り)－戸台(16:30 雪)

常にラッセルに悩まされたが天候に恵まれ充実した山行であった。

< ハケ岳・中央アルプス >

19. ジョウゴ沢、裏同心ルンゼー小同心クラック(ハケ岳アイスクライミング)

【メンバー】鮎沢(L)、外池

【日程】1985年12月7日～8日

12月7日(曇りのち晴れ)

赤岳鉱泉にベース設営後ジョウゴ沢へ。右俣 F1 と上部支流でトレーニング。

12月8日(曇りのち雪)

BC(6:30)ー裏同心ルンゼ出合(6:40)ー大同心基部(7:40)ー小同心クラック登攀開始(9:00)ー横岳(10:40)ー硫黄岳(11:20)ーBC(12:00)

鮎沢の新調のシャルレ・スーパー14の威力は抜群。外池もすりへったカジタでよくガンバった。小同心は吹雪で寒かった。

20. 広河原沢第3ルンゼ(ハケ岳アイスクライミング)

【メンバー】鮎沢(L)、外池

【日程】1986年1月5日～6日

1月4日

バスで学校まで。夏のキャンプ場のあずま屋に幕営。

1月5日

TS(6:25)ー船山十字路(7:25)ー広河原二俣(9:00 雪)ー3ルンゼ出合(13:30 雪)ーBP(14:30 雪)

1月6日

BP(6:50)ー学校(9:40)

快適なクライミングを求めて再びハッにやってきたものの、積雪が予想以上に多く、本谷も3ルンゼもほとんどの滝が雪に埋まっており、ラッセルに終始した。3ルンゼ大滝下より引き返し右岸の岩かけでビバーク。寒くつらい一夜だった。

21. 宝剣岳 東壁中央稜、西壁第2尾根(冬季登攀)

【メンバー】谷口、外池

【日程】1986年1月19日～21日

1月19日(晴れ)

千畳敷山荘(0:40)ー東壁中央稜取付(7:30)ー宝剣岳頂上(13:00)ー千畳敷山荘 TS()

時間の表示が不明所要時間を書いているのか？

1月20日(晴れ)

TS(1:00)－天狗荘 TS

第2尾根取付きを確認後テントで休養。

1月21日(曇り)

天狗荘 TS(1:00)－第2尾根取付き(3:30)－宝剣岳頂上(0:30)－天狗荘(0:30)－千畳敷山荘

中央稜1P目外池3m落、第2尾根1P目谷口5m落。両ルートとも冬季の経験の少ない我々にはやや難しすぎた。中央稜は、時間が異常にかかったが、なんとか完登した。しかし、第2尾根は4P目以降は左から巻けたので、安易ではあるが巻いてしまった。冬季登攀の難しさをおもいらされた山行であった。

22. 八ヶ岳

【メンバー】鮎沢(CL)、斎藤(SL)、外池、河野(以上2年)、川名(3年)、小野、大野(以上1年)

【日程】1986年3月4日～9日

【コースタイム】

3月4日(快晴)

<南稜隊>(斎藤、外池、河野、川名)

前夜発－茅野(5:55)－6:22 船山十字路 6:52－6:37旭小屋－6:48－8:41－P2057
8:48－9:41立場手前9:51－10:20立場岳 TS

この時間の書き方が理解できない

3月5日

TS(6:10)－P3取付(7:55)－P3上(8:23)－P4上(8:45)－阿弥陀岳頂上(8:54)－中岳
コル(合流 9:30)－中山乗越(10:50～11:30)－BC(11:50)

3月6日(快晴)

BC－ジョウゴ沢右俣(8:00)－大滝上(13:00)－硫黄岳頂上(14:00)－BC(15:00)

3月7日(快晴)

<赤岳南峰リッジ中央稜隊>(鮎沢、河野、大野)

BC(6:20)－文三郎尾根(7:26～7:37)－リッジ基部(8:12～8:26)－第1岩稜上(8:50)
－上部岸壁取付－稜上(10:25)－赤岳山頂(阿弥陀北稜隊と合流 10:35)－三又峰(11:
45～11:56)－硫黄小屋(12:32～12:42)－BC(13:35)

<阿弥陀岳北稜隊>(斎藤、外池、川名、小野)

3月8日(快晴)

<赤岳南峰リッジ隊>(鮎沢、小野)

<石尊稜隊>(斎藤、外池)

<阿弥陀岳北稜隊>(河野、大野)

BC(6:20)－JP付近(7:43～7:50)－第2岩稜上(8:30～8:45)－岩稜上(9:25)－阿弥陀岳山頂(9:35～9:45)－中岳コル(9:55)－文三郎尾根分岐(合流 10:20～10:55)－赤岳三稜右ルンゼ取付(11:10)－赤岳北峰付近(13:10)－BC(14:20)

合流後、鮎沢、斎藤、外池、河野は赤岳主稜へ。小野、大野はBCへ。

3月9日(快晴)

<中山尾根隊>(鮎沢、斎藤、外池)

<赤岳隊>(河野、小野)

BC(6:34)－赤岳(8:00)－BC(9:20)

<テントキーパー>(川名、大野)

BC撤収(11:50)－美濃戸(13:15～13:56)－茅野駅(14:45)

今合宿は終始天候に恵まれフルに活動することができた。おかげで、雪上訓練・お鉢回り、岩稜・アイスクライミングのすべてを無事にこなすことができた。岩稜では、初参加の1年生も2ルート登攀したほか、上級生は中山尾根へ行くこともでき質量ともに昨年を上回った。ジョウゴ沢も今年は完全遡行をはたすことができたわけだが、今回初登場のチューブピックのアイスバイルの性能の良さには一同感心した(文責 河野)

< 東京近郊 >

23. 三つ峠(新入生歓迎山行)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、川名、斎藤、外池、河野、小野、大野、青木、樋渡、大津、白石、戸川 OB、金子 OB

【日程】1985年4月26日～28日

4月26日

前夜、達磨石まで入っておいた鮎沢と戸川 OB は、屏風岩で岩登りを楽しむ。午後には、金子 OB も来られ、3人で一般ルート～T字クラック～権兵衛チムニーを登る。金子 OB は、鮎沢のラバーソールシューズを履いてみて大変気に入られたようだった。

夕方、金子 OB 下山。

4月27日

後発隊、達磨石経由で入山。テントを張ったあと山頂往復。夜は、焚火を囲んで宴会。戸川 OB のうたう“インターナショナル”が闇夜にこだました。

4月28日

宿酔いの者もいるが、屏風岩にトップロープを垂らして遊ぶ。1年生も初めての岩登りを満喫したようだ。木無山を経て河口湖へ下山。

24. 己ノ戸谷ー越沢バットレス

【メンバー】鮎沢(CL)、河野(SL)、大野

【日程】1985年6月16日～17日

6月16日

1年生大野の初めての岩登りということで、己ノ戸谷へ。下部は“*山の悪場”などあって楽しめたが、上部の溪相はいささか冗長で飽きた。仕事道が横切る地点でビバーク。

6月17日

いったん奥多摩駅へ降りてから越沢へ向かう。右ルートと左ルートを登る。

25. 己ノ戸谷ー越沢バットレス

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、川名、斎藤、外池、河野、小野、大野、青木、樋渡

【日程】1985年6月19日～25日

授業の合間と梅雨の晴れ間をぬって三々五々三つ峠に集まり、確保訓練、搬出訓練等行う。ラバーソールテクノロジーの進歩を見せつけられた。

26. 鴨沢－雲取山－七つ石

【メンバー】川名(CL)、大野

【日程】1985年7月6日～7日

ヘアゴム、ヘアピンがどこかに飛ばされ登山靴の金具も折れたヤブコギが忘れられない(道に迷って)

27. 水根沢谷

【メンバー】鮎沢(CL)、外池(SL)、小野

【日程】1985年7月7日

最近はやりの“泳ぎによるゴルジュ突破”をやってみようということでその入門ルート水根沢谷へ向かう。いささか肌寒い陽気ではあったが積極果敢に水に入り、あげくのはては遡行図のコピーが解読不能となりきりのいいところで水根沢林道へと逃げた。

28. 小川谷、犬麦谷

【メンバー】谷口(CL)、大野

【日程】1985年9月2日

29. 北秋川月夜見沢(小巻一月夜見沢左俣一月夜見山－御前山－奥多摩駅)

【メンバー】鮎沢

【日程】1985年9月14日～15日

小雨の中、奥多摩の静かな沢を遡行。これといった難場もなく河原歩きという感じだった。

30. 川苔谷・逆川

【メンバー】鮎沢(CL)、大野

【日程】1985年10月5日(曇りのち雨)

31. 笛吹川東沢・ヌク沢

【メンバー】外池(CL)、河野(SL)、小野、大野

【日程】1985年10月20日

晴れていたがとにかく寒かった。下山後、西沢溪谷でのアンケート、「コース中において改善してほしい等の希望・ご意見」を求められ絶句。

32. 後山川三条沢

【メンバー】大野

【日程】1985 年 10 月 27 日(快晴)

初めての 1 人のステーションビバーク、初めて 1 人でヒッチハイク・・・とすべて「初めて 1 人」づくめ。でも、往きは 3 時間の林道歩きを、かえりは林道のみならず一橋寮の近くまで乗せてもらってしまい lucky する。しかし、実は源頭まで忠実につめずに稜線にしようとしたため、*** そうぜつなヤブコギを強いられ、ケガもかなりした。

33. 増富－金峰山－甲武信岳－雲取山－鴨沢(奥秩父縦走)

【メンバー】外池

【日程】1985 年 11 月 4 日～6日

11 月 4 日(晴れ)

増富－瑞牆山荘－甲武信小屋(所要 10 時間) 幕営

11 月 5 日(曇り)

TS－将監小屋(所要 5 時間 30 分) 幕営

11 月 6 日(雨)

TS－雲取山(所要 6 時間)－鴨沢バス停

飛龍山付近でどこからともなく現れた子犬が鴨沢バス停まで伴走してくれた。常に 10m くらい前を走り、迷いそうな分岐点でも常に正しい道へ導いてくれた。そして、バス停まで私を連れていくとどこへともなく消えて行った。不思議な犬だった。

34. 二子山－志賀坂峠

【メンバー】大野

【日程】1985 年 11 月 5 日(快晴)

35. 乾徳山

【メンバー】小野、大野

【日程】1985年11月17日(曇り)

36. 富士山(雪訓合宿)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、川名、外池、河野、斎藤、小野、大野

【日程】1985年11月28日～12月2日

11月28日夜行発

11月29日(曇り)入山と雪訓

11月30日(晴れ)雪訓

12月1日(晴れ)全員で頂上アタック

12月2日(曇り)雪訓後下山

37. 棒ノ折山ー高水三山

【メンバー】大野

【日程】1986年1月19日(快晴)

冬に1人で出かけるのが一番つらい。暗くて寒い早起き。

38. 笛吹川東沢(氷瀑合宿)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、川名、外池、河野、小野、大野

【日程】1986年1月24日～25日

1月24日

東沢山荘(9:35)ー乙女ノ沢出合 BC(11:30)ー西のナメ沢 F1でトレーニング(12:30～15:30)ーBC(16:15)

1月25日

乙女ノ滝(7:15)ー大滝上(14:45)ーBC(16:00～16:45)ー東沢山荘(18:50)

アイスクライミングの基礎習得を目的に今年も東沢へ。乙女ノ沢の各滝は見た目ほど傾斜もなく快適に登れる。大滝で遊んでいたら、帰路は月明かりの中となってしまった。

< 東北・上越 >

39. 明星山アイツ沢

【メンバー】鮎沢

【日程】1985年5月18日

文登研(文部省春山登山研修会)からの帰路、車窓より眺めた白い岩肌に魅せられ、文登研の興奮(?)をそのまま明星山東面のアイツ沢に持ち込んだが、南山稜に出る直下でもろい壁にはばまれてあえなく敗退。フキノトウをつんで小滝駅へともどる。それにしても、あの石灰岩の白さは鮮やかだった。

40. 水晶尾根―大日岳―飯豊本山―松の木尾根(飯豊連峰、冬山偵察)

【メンバー】鮎沢(CL)、斎藤(SL)、川名、外池、河野、小野、大野

【日程】1985年10月9日～12日

道のない山で、予想通りヤブコギがシンドかった。水晶尾根で予想以上に時間がかかり、水が不足してきてヒヤリとさせられたが、幸い池塘を発見し、ことなきをえた。また、大日岳での幕営では、強風のためダンロップのポールを折られた。体中傷だらけになりながら、まあ充実した山行だった。(斎藤)

41. 谷川岳幽ノ沢中央壁左フェースルート―肩ノ小屋―天神平(谷川岳 OB 山行)

【メンバー】戸川、引地(以上 OB)、鮎沢

【日程】1985年10月20日～21日

10月19日

成蹊大学の虹芝寮をお借りして他の OB 諸氏と宴会

10月20日(曇り)

西黒尾根を登る OB 諸氏と別れて幽ノ沢へ入る。カールボーデンまでは快適だったが、中央壁左フェースは濡れていて絶悪。Zピッチを抜けてからの垂壁がボロボロでピトンが効かず、トップの鮎沢ははっきり言ってパニックした。結局所要6時間半でヘッドランプをつけ、フラフラになって肩ノ小屋に転がり込んだ。

10月21日(快晴)

天神尾根を下降。紅葉が目染みた。

42. 水晶尾根―大日岳―飯豊本山―松の木尾根(飯豊連峰、冬山合宿)

【メンバー】谷口(CL)、鮎沢(SL)、川名、外池、河野、斎藤、小野、大野

【日程】1985年12月14日～27日

12月15日(快晴→俄雪)

日出谷駅(8:10)－小荒部落(9:10)－小荒ダム(10:10)－水晶尾根取付(11:30)－尾根上(12:10)－570m付近で幕営(14:10)

12月16日(俄雪→晴れ)

出発(5:30)－700m前(7:15)－1,108m前のコルへの下りで幕営(13:00)

12月17日(曇り→晴れ→俄雪)

出発(6:00)－大根おろし基部(6:40)－大根おろし登攀終了(10:55)－水晶峰(11:50)－1,067m前で幕営(13:30)

12月18日(雪)

強風のため沈

12月19日(雪)

出発(5:55)－笠掛山(9:05)－1,680m下のコル(12:05)－櫛が峰のコル(13:15 幕営)

12月20日(雪)

強風のため沈

12月21日(雪)

強風のため沈

12月22日(晴れ→曇り)

出発(6:45)－大日岳(10:20)－御西小屋(12:00)－頂上小屋(14:00)

12月23日

強風のため沈

12月24日

強風のため沈

12月25日(強風快晴→雪)

出発(6:40)－切合小屋(8:40)－種蒔山付近でホワイトアウトのため道を失う(9:40)－行動断念(11:00)－幕営終了(11:00)

12月26日(雪→晴れ)

谷口、鮎沢がルートファインディングに向かう(6:30)－谷口、鮎沢戻る(8:00)－出発(9:10)
－三国小屋(11:20)－松の木尾根下降終了(13:50 河原で幕営)

12月27日(雪)

出発(7:00)－御沢小屋(7:45)－一の不(10:45)

冬の飯豊は天気が悪い。この一言につきる山行だった。女性2名を含む全員での合宿としてかなりハードなものだったと言える。25日には、ホワイトアウトのため、先頭を歩いていた谷口が雪庇を踏みぬきヒヤリとさせられたが、幸い緩傾斜であったため自力で脱出できた。悪天の場合は動かない、という冬山の鉄則を身をもって知らされ、今後はこの鉄則が遵守されることになろう。冬山の恐ろしさを十分に経験し、今後の活動にとって非常に有意義な山行であった。(斎藤)